

ETロボコン2019チャンピオンシップ大会

ETロボコン本部実行委員長 / 株式会社ジェイティック 星 光行

2019年11月20日～21日、ET・IoTテクノロジー展との併設イベントとして、ETロボコンチャンピオンシップ大会が開催された。20日はデベロッパー部門（プライマリクラスとアドバンストクラス）の競技会と懇親会、21日は会議センターでのワークショップと展示会場メインステージでガレッジニア部門を並行して実施した。

ETロボコンも通年で17回目、JASAが主催者となってから14回目の開催になる。そして、長年の組込み産業界の人材育成活動に対して、情報処理推進機構(IPA)の推薦により、令和元年度「情報化促進貢献個人等表彰」経済産業大臣賞を受賞した。

今年は、働き方改革で開発時間が十分取れないなどを考慮し、競技ルールを大き

く変更した。従来は、左右の異なるコースを2回走行し合計タイムで競っていたが、今年は、左右対称のコースにして、どちらかのベストタイムで競うこととした。そのため、開発時間がほぼ半分となり、戦略も1走目で安全走行し、2走目でチャレンジする、あるいは両方ともベストタイムを目指して走行するなど、各チームとも従来とは異なる戦略で見応えのある大会となった。

また、従来は、1走目で失敗すると、なかなか優勝するのは難しかったが、ベストタイム制にしたため、最後の最後まで何が起こるかわからないため、大変盛り上がった。

さらに、スタートの失敗を救済するため、リスタートラインを設け、このラインを超えない限り何度でも再スタートができるようにし



た。この施策により2輪走行のプライマリクラスではスタートの失敗が格段に減った。

一方、アドバンストクラスでは、多くのチームがさすがチャンピオンシップ大会と思われる走行を見せてくれた。特に、画像処理やAIを駆使したカラーブロック並べの難所は、複数のチームがパーカーフェクトの走行を披露し、見学者から多くの拍手が起った。

ガレッジニア部門では、昔からある懐かしい野球盤を改造し、センサーを組込んだボールとバットで、室内でも実際のボールを投げ、バットを振って遊べる装置を作成したチームが優勝をした。

毎年、競技ルールなどを変更しているが、2020年は参加チームの裾野を広げるために、さらに競技内容を大きく変更する予定である。是非、参加の検討を期待したい。



モノづくりフェア2019出展のご報告 九州支部

九州支部は10月16日(水)～18日(金)までの3日間、「モノづくりフェア2019」への出展を行いました。この展示会は日刊工業新聞社が主催で、35回目を迎える今回は「モノと動かすヒトの心」というテーマの下、九州域内外の新たな価値を生み出す新技術、新製品、新サービスの最新情報が展示されました。

JASAの展示や催し

JASAとしては以下①～⑥の展示や催しを行い、いずれも大盛況という結果でした。
①JASAパビリオン=会員企業によるブース展示(九州支部) ②ETEC体験受験コーナー(ETEC企画委員会) ③ETロボコンデモ展示(ETロボコン九州北地区実行委員会) ④協業セミナー3テーマと、その講師や出席者による交流会(協業推

進委員会) ⑤業界研究セミナー3テーマ(研修委員会) ⑥交流祭典=来場学生と会員企業およびJASAによる交流会

これに加え、今回初の試みとなる「ETロボコン モノづくりフェア杯」(主催:日刊工業新聞社、後援:ETロボコン九州北地区実行委員会、協賛:JASA)が行われ、参加チームの熱い戦いが繰り広げられると共に、主催者や学生・JASA各組織間の交流を深めることができました。

また、九州支部では初となる「クミコ・ミライ」モデルを採用し、JASAパビリオンへの集客率向上へ貢献しました。



今後に向けて

九州支部では支部会員企業数拡大を図るべく、このモノづくりフェアを通して来場者や出展社へアピールを行っております。今後も継続して支部活動を盛り上げていける様に尽力すると共に、JASAの目的でもある組込みシステム技術の高度化及び効率化へ寄与して参ります。